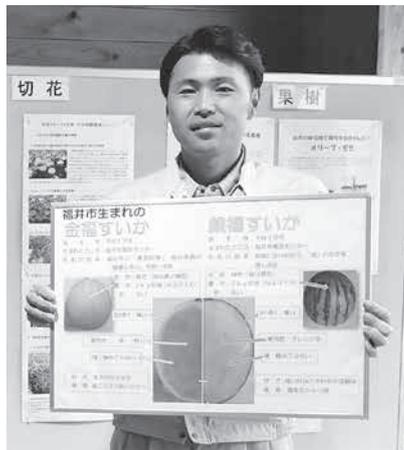


職場探訪

福井市園芸センター

福井市園芸センターは、昭和46年10月に発足し、平成10年4月に国の事業（農業構造改善事業）によりリニューアルオープンしました。

今回の職場探訪では、そんな園芸センターを訪問し、宮郷主査にお話を伺いました。



福井市園芸センター 宮郷主査

園芸センターの業務を教えてください。

宮郷 基本的には園芸作物の試験研究や農家への栽培指導などの普及活動が中心の業務です。ただ、ここ数年は、販路開拓が業務の大きなウエイトを占めるようになってきました。販路開拓については、すべての品目と言うことで



はなく、農政企画室と分担して行っています。品目によって、入り

口から出口まで対応しています。ただ、出口の部分に関しては、農政企画室がメインになりますので、連携しながら行っています。具体的にはスイカ「金福・銀福」、ニンジン「きゃろふく」とカーボロネロ、あと越前水仙ですね。

水仙の栽培普及・販路開拓は、当センターの担当になります。越前村時代から水仙の栽培、指導に

宮郷 大都市、特に首都圏に関しては、どうしても福井にいたるわたしたちができることは限られていますので、福井市東京事務所と連携して、取り扱ってもらえるところを開拓しています。

今年、高級スーパー「紀ノ國屋」でも取り扱ってもらうことができました。ここも、東京事務所の職員が探ってきて話をしていただいたお店です。東京事務所の職員には、販路開拓の面で、かなり協力をいただいています。最終的な出荷の相談や協議については、わたしたちが出向いて相手

主な施設		
名称	棟数	面積（平方メートル）
管理棟	1	1,168
農機具格納庫兼堆肥舎	1	172
培土舎	1	20
栽培温室	12	3,030
ビニールハウス	19	2,315
畑・果樹地	—	4,889
研修園地	—	2,970
資材保管庫	—	273



試験研究で栽培された作物は廃棄することなくセンターで販売している

贈答品として、商品提案していません。

「オイシックスについて教えてください。インターネットで野菜を販売しているサイトとどうですか。」

宮郷 こだわった野菜や果物、加工品を販売しております。先週、東京に出張し、先方とお会いしてきました。簡単に買えないようなものを求めていると感じました。

「やはりオイシックスを利用される方も食材にこだわった方が多いと言っていますか。交渉をされる上で苦労された事はありますか。」

方と話をしています。インターネットでの流通も進めていて、食品通販サイト「オイシックス」では、平成26年から取り扱ってもらえています。このスイカを高単価で流通させ、農家の収入を確保するために、一般的な販路ではなく、こういったところを選んでいきます。「金福・銀福」は他のスイカに比べ、育てるのに手間がかかります。また、手作業も多く、収穫できる数も少ないです。さらに必要な設備も多いことから、多くの経費が必要となります。このことから、農家の収入を確保するために、ちょうど収穫時期が、お中元のシーズンに重なるので、高単価である

の年は年間の販売額が減りました。平成29年は、その基準をしっかりとクリアするように工夫して、無事出荷することができ、販売額も回復することができました。

「市町村で園芸センターがあるのは珍しいのではないですか。」

宮郷 確かに全ての県庁所在地にはありませんが、全国には当センターと同じ様な施設はあります。例えば、北陸で言う和本市以外に金沢市、新潟市にもあります。また、全国にある市立農場が加入している協議会があります。福井県には、試験研究機関の農業試験場があり、農業改良普及員という職員もいらつしやいます。他県では当センターが行っているような業務を県に集約する流れもあるようです。

宮郷 オイシックスは、農業や化学肥料の使用などに基準があり、安心な農産物を取り扱うことを言っています。金福や銀福、カーボロネロは、オイシックスへの出荷が販売額の軸になっています。その基準に合わせた栽培をしています。実はオイシックスに出荷ができなかった年があって、そ

「農業から見た福井の現状を教えてください。」

宮郷 基本的にはこれまで稲作主体の農業を行ってきました。ここ数年お米の価格が低迷しています。稲作だけでは農業経営が難しくなっています。もちろん稲作をやるのではなく、「複合化」と言って稲作と園芸を組み合わせる経営を推

福井市生まれの 金福すいか	銀福すいか
誕生年：平成12年	誕生年：平成19年
生まれたところ：福井市園芸センター	生まれたところ：福井市園芸センター
名前の由来：福井市の「景気回復」、福井市民の「健康と幸せ」を願う命名	名前の由来：金福に近い名前で、「福」の文字を残し命名
皮色：黄色（縞は濃い黄色） 重さ：2kg前後（小玉スイカ） 形：丸い	皮色：緑色（縞は黒色） 重さ：2kg前後（小玉スイカ） 形：丸い
皮の厚さ：薄い	皮の厚さ：薄い
果肉色：赤色	果肉色：オレンジ色
種：極めて少ない	種：極めて少ない
甘さ：まるやかな甘さ 食感：歯ごたえの良いシャリ	甘さ：強い甘みとさわやかな酸味 食感：適度なシャリ感

進んでいます。そのような現状を踏まえ、当市では平成26年度に「福井市農業活性化プラン」という5か年計画を策定し、様々な事業を行っています。

また、本市だけではありませんが、農家数の減少、稲作農家自体も減ってきており、農家の高齢化も課題となっています。高齢化については、稲作だけの問題ではなく園芸農家にも言えることです。その対策として、新規就農者を呼び込む活動を農政企画室が行っています。募集は農政企画室が行い、就農した農家の指導を当センターが担当しています。先ほどの「金福・銀福」や「カーボロネロ」、「きやろふく」も、新規就農者に作ってもらっています。

当センターでは、新規就農を希望している人を対象に、栽培方法などを学んでもらう講座を開設しています。



—そういった講座には、大人になるまで全く土を触ったことがない方もいらっしゃるのではないですか。—

宮郷 もちろん非農家の方もいらっしゃると思います。ただ、全く知識や経験がゼロという人は当センターの講座では珍しいですね。今は新規就農支援制度があり、例えば、いずれも県の事業ですが、里親農家の下で一年間研修する制度や「園芸カレッジ」と言う新規就農者を育成する施設（あわら市）もあります。

—農業から見た福井市の地質・気候を教えてください。—

宮郷 市町村合併で海から山まで広くなりましたからね。当市はもともと、水持ちが良い、粘質土壌が多いことや冬は積雪もあり、日照時間も短く気温が低いことから野菜作りではなく、稲作が盛んです。もちろん、場所によっては園芸が盛んな地域もあります。例えば福井市白方町では砂丘地であることから、水はけが良い砂地を生かしたダイコンなどの栽培を行



—最近、昔と比べて積雪も少なくなつたと言われますが、このことと作物の栽培に関係はありますか。—

宮郷 雪が降らないからと言って、晴れている訳ではないですから、作物の栽培に大きく影響があるほどではないです。やはり気温は低いですし、日照時間は短いことに変わりはないですからね。

—お仕事をされる上での苦労ややりがいなどを教えてください。—

ついています。しかし、日照時間が短く、気温が低い冬の福井では、トマトなどを栽培するのが難しく、葉物野菜を栽培するのが中心です。暖房をつければ別ですが。近年は、園芸を推進してきた結果、園芸に取り組む農家は増えてきました。「カーボロネロ」は、例年11月が収穫の時期ですが、これはビニールハウスがあれば暖房しなくても栽培できるのと、当市で冬に多く栽培されているホウレンソウとの差別化が図れることから普及に努めています。

最近、食への関心が高い消費者が多くなつてきているので、お店の方もだいぶ詳しく聞いてこられ

ます。やっぱりバイヤー（仕入れ担当）の方は、わたしたちから見ても詳しいですね。市場で良いもの悪いものをずっと見ていらっしやいます。物の善し悪しをしっかりとわかっていらっしやる方ばかりですので、誤魔化しは利きません。ですので、バイヤーさんと話す時に現場を知っていることは、役に立っていると思います。また、わたしたちも営業の場に出向くことで勉強になることが多いです。自分たちでは良いと思っても、市場からの視点で、不十分なところを指摘してもらえます。そういったことを農産物に活かして、そのことが農家さんの収入につながる形ができています。

—バイヤーさんの指摘で取り入れた点があったら教えて下さい。—

宮郷 ニンジン「きやろふく」の形です。わたしたちは、いろいろ改良を行って、今の形が良いと思っています。一般的なニンジンと比べると、ちよつと先が細いのです。ちよつと先週、首都圏のバイヤーさんを訪問したのですが、



その時に、市場からすると先がもつと丸くて、太い方が良いと言う指摘がありました。はつきり、いらないと言われました。正直、わたしたちは良いものができたと思いい、売り込みに行くので、そうはつきり言われると、さすがにショックでした。ただ、それがあらかそ次につながられるかなと思います。

—実際、指摘されたとして改良はできるものなんでしょうか。—

宮郷 基本的には品種と品種の掛け合わせで改良していきます。その中でたまに理想の形のものが取れることがあります。その種子を

活かしていきます。それを繰り返していくとだんだん理想のものだけが採れるようになります。でも何年もかかります。年に1回しか採れないので、1年に1回しか先に進まないと言う事ですね。ちなみにスイカは年に2回採れます。夏の前と秋ですね。

「金福・銀福」、「きやろふく」、「カーボネロ」は、市役所から始まった農産物ということでした。わたしたちが引っ張っていきたいですね。

このほかにも、センターの皆さんから「水仙の出荷」、「国体・障スポの花いっぱい運動」、「きやろふくと仁愛女子短期大学の協力」、「取り組みを始めたオリーブの実」などたくさんお話を伺いましたが、紙面の都合で割愛せざるを得ませんでした。お忙しい中ご協力いただき、ありがとうございます。

（取材）自治労福井市職員労働組合

摩垣 弘



冷蔵庫（出荷を待つ作物などを保管）



ハウス施設

